

さくら

vol.6

平成27年2月26日発行

医療コラム

おしえて! **ドクター**

糖尿病と共に 生きる

P4・5

新年のあいさつ

(いちき串木野市医師会会長 丸田修士先生)

(いちき串木野市医師会立脳神経外科センター院長 下鶴哲郎先生)

..... P2・3

地域医療を支える 医師会会員病院紹介 P6・7

知っておきたい専門職の仕事 P8・9

みんなの掲示板 P10

編集後記 P10

Photo. 屋久島の屋久杉

職員旅行で行った屋久島の屋久杉。その雄大な姿に一同絶句でした。

新年を迎えて

平成27年明けましておめでとうございませう。

今年も脳神経外科センターを含めいちき串木野市医師会がさらなる活動できるように御協力をお願い申し上げます。

本市でも4月から第6期介護保険事業計画が始まります。

平成24年には高齢化率は30%を越え、平成37年には37・7%と推測されています。高齢化率が住民の50%を越えると限界集落といつて暮らしの共同体を維持できなくなるそうです。その

丸田 修士

いちき串木野市
医師会会長

事に対し10年後へ向けて地域包括ケアシステムを構築するため事業計画を立て創造していく委員会が開かれています。

1. 住み慣れた地域で高齢者を互いに支えるまちづくり
2. 健やかで生きがい満ちたシニアライフの充実
3. 暮らしを支える生活支援と住まいの充実

以上を推進していくためには医師会員による訪問診療、訪問看護や訪問リハの指示などが必要になります。今年から待つ医

療ではなく出ていく医療も必要になっていきます。よろしく御理解お願い申し上げます。

新年の挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年はエルニーニョ現象で冷夏・暖冬と言われましたが、それでも正月は例年通り寒く、院長になって最初の元旦には雪が降り、さらに身が引き締まる思いです。私どもの病院は、昭和63年医師会相互の共同利用拠点病院として設立されました。これまで地域の救急医療への対応を担ってきましたが、ここ数年で病院も、時代のニーズとも成長し変化してきておりま

す。一つ目は、tPAなどの脳梗塞治療と脳血管内手術の進歩です。救急医療においては、運ばれて数時間で診断から治療まで行う集中医療をすすんできてお

下鶴 哲郎

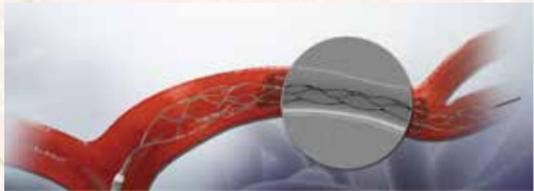
いちき串木野市医師会立
脳神経外科センター
院長

り、早期発見・早期治療がより重要となっております。心房細動によって血栓が脳に飛ぶ脳塞栓という病気がありますが症状が出てから4・5時間以内にtPA（血栓溶解剤）を注射すると4割の方で詰まったところが再開通するようになりました。現在は、残りの詰まったままの方も新しい血栓回収装置を使って血管内手術で通るようになってきています。当院ではカテーテルで行う脳血管内手術が頭を開けて手術をするより多くなり、約300人近く治療をうけておられ、低侵襲であるため高齢者に向いています。昨年、手術に使う脳血管撮影装置を高精細の4kパネルを使った最新の機械に更新しましたので、今後

さらに最先端の医療を取り入れていきます。

二つ目は、リハビリを中心職員のパワーが増えたことです。数年前回復期リハ病棟を開設しましたが、特に増員したリハビリスタッフの威力には目を見張るものがあり、肺炎・骨折などの合併症が少なくなりました。そのため、退院する患者の8割近くが在宅へ復帰されています。全職種が脳疾患に精通しチームで医療を行うことで、患者さんの生活能力が向上し在宅へ移りやすくなっているのだと思います。平成25年からは訪問看護ステーションを開設しました。この地域の在宅医療への橋渡しとして、かかりつけ医やケアマネジャーとの連携

を深めてまいります。また地域包括ケアに参加してこの地域での医療と介護の連携が進むようインターネットを利用したさくらネットも始めており、将来この地域で一生懸命の患者一人一人のカルテができるかもしれません。この住み慣れたこの地で安心かつ快適に治療・療養が出来るよう充実した医療とケアを提供し、これらで以上に地域の脳卒中の基幹病院として、邁進したいと思っております。





糖尿病の人は、糖尿病でない人と比較すると『がん』にかかりやすい。肝臓がん、膵臓がん、大腸がんなど、1.4倍以上の発生率である。

※40歳以上の人は、ぜひ年1回は全身の検診、がん検診（特に糖尿病の人は）を受けて欲しい。

Aさんは、渡瀬恒彦似の苦み走った良い男である。

血糖コントロールは、ヘモグロビンA1C 7.6〜7.8%。ギリギリの所で薬を増やすか否か悩んでいた。

その一方で、温泉巡りが好きで、近くの温泉の良し悪しを講義してくれていました。

秋のある夕方、血糖値 420 mg/dl A1C 9.2%という結果が出た。身体に変化は無いかと聞くと、Aさん「特に変わった事は無いけど、一週間前くらいから疲れやすくなりました」と。

数日後、「仕事に穴を空けられない」と言うAさんを何とか説得して、総合病院へ行ってもらいました。

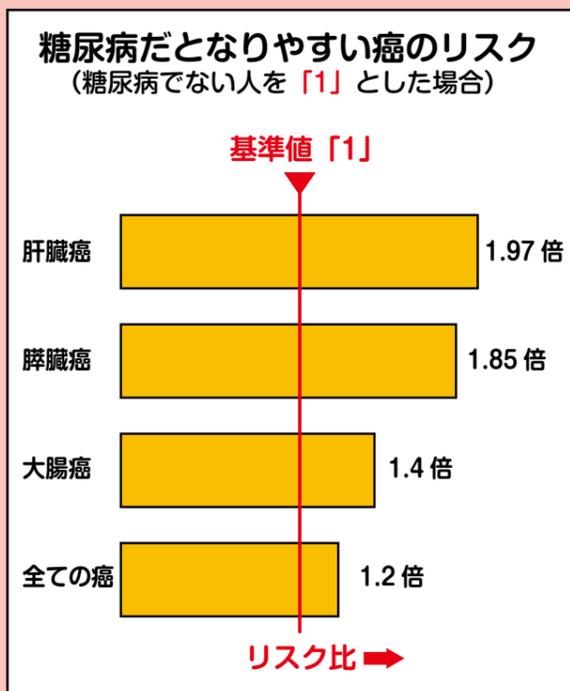
結果は、『膵臓がん』。実は、『膵臓がん』は、とても発見が難しく、発見した時には既に手術は「不可能」と言うこともある。

最近では、抗がん剤など治療が大変改善されている。

糖尿病と共に生きる

第2回 ~「糖尿病」と「がん」発生について~

1) 糖尿病の人は『がん』になりやすい。



2) なぜ、糖尿病の人は『がん』になりやすいのか？



3) 科学的根拠に基づく「がん」検診

「がん検診」の種類	対象者	実施間隔	検査方法
胃がん	40歳以上の男女	年1回	問診および胃部エックス線検査
子宮がん	20歳以上の女性	2年に1回	問診・視診・子宮頸部の細胞診および内診
肺がん	40歳以上の男女	年1回	問診・胸部エックス線検査および喀痰細胞診
乳腺がん	40歳以上の女性	2年に1回	問診・視診・触診および乳房エックス線検査(マンモグラフィ)
大腸がん	40歳以上の男女	年1回	問診および便潜血検査



さゆりクリニック
丸田小百合先生

地域医療を支える 医師会会員病院紹介

地域医療機関との相互連携を一層密に、医療を必要とする患者さんのニーズに応え、適切で切れ目のない医療提供の実現を目指しています。

医療法人 勝目眼科



◆ 眼科

理事長 / 勝目 紀一
 住所 / いちき串木野市元町 200 番地
 電話 / 0996-32-2237
 診療時間 / 【月・火・水・金】
 午前 9:00～12:00
 午後 14:00～18:00
 【木・土】
 午前 9:00～12:00
 午後休診
 休診日 / 祝日、木・土曜午後

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

当院は、串木野の元町商店街の一画にある開業して67年になる眼科です。

昭和22年に先代の勝目三人が開院、わたくしが継承して、昭和55年にコンタクトレンズ部と眼鏡部を隣設し35年が過ぎました。

その間平成22年に有床設備は休床し、現在は外来診療のみ行っています。私達の日常は視覚に頼っており、目のトラブルは思った以上に生活に支障をきたします。普段から目のケアに注意し、異常を感じたらすぐに眼科医に相談することが大切です。

当院では患者様のお一人お一人の体調や生活に配慮した心のこもった診察を心掛けています。特に白内障手術をはじめとして、内眼手術の必要な患者様は関連病院と協力しながら対応するように心掛けておりますので、お気軽に御相談下さい。

これから地域の方々との触れ合いを大切に多くの方々に親しまれるような診療所を目指して職員一同で前進してまいります。

医療法人あさひ会 金子病院



◆ 外科・胃腸科・肛門科・呼吸器科・放射線科・内科・リハビリテーション科

理事長 / 金子 洋一
 院長 / 松本 正隆
 住所 / いちき串木野市照島 6002 番地
 電話 / 0996-33-0011
 診療時間 / 【月・火・水・木・金】
 午前 9:00～12:30
 午後 14:00～18:00
 ※午後は手術等で変動しますので、お電話にてご確認をお願い致します。
 【土】
 午前 9:00～12:30
 休診日 / 土曜午後、日、祝

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○	○	×	×

当院は平成4年11月開院の病床数44床の急性期病院です。乳腺・甲状腺および一般・消化器外科(食道・胃・大腸肛門・肝胆膵・ヘルニアなど)を中心に診療を行うとともに、救急医療や生活習慣病・感染症治療、高齢者医療、一般健診などの地域に根差した診療も数多く行っております。近年は従来の開腹手術に加え、内視鏡を用いた侵襲の少ない腹腔鏡手術が増加し、また種々のがんに対する化学療法やターミナルケアも充実させて地域完結型のがん診療を目指しております。さらにいちき串木野市はもとより、鹿児島市、日置市、薩摩川内市など多方面から紹介患者も増加しており、各医療機関とも一層の連携を深めているところです。平成11年9月には鹿児島市荒田町に金子クリニック(乳腺・甲状腺専門)を開院しております。

当院は日本外科学会、日本がん検診診断学会、日本乳癌学会の施設認定を受けるとともに、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会などの各種専門医及び皮膚・排泄ケア(褥瘡などの創傷管理やストーマなどの排泄管理)、がん化学療法の認定看護師が常勤し、より専門性の高い医療を提供しております。

京町内科・脳神経クリニック



◆ 内科・神経内科

院長 / 宮之原 正和
 住所 / いちき串木野市京町 43
 電話 / 0996-32-2855
 診療時間 / 【月・火・水・金・土】
 午前 9:00～12:30
 午後 14:00～18:00
 【木】
 午前 9:00～12:30
 午後休診

休診日 / 日、祝、木曜午後

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	○	×

開院してから11年が経ちました。一般内科と神経内科を中心に地域医療を行ってきました。

当地には医師会立脳神経外科センターという急性期脳神経疾患医療を行う施設がありますが当院はそのプライマリーケアとなるべく役割、また急性期・慢性期の医療を終えて在宅復帰された方の後方支援クリニックの位置づけにあると考え日々診療を行っております。

当院の主診療科は神経内科で脳卒中後遺症を中心に、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの通院可能な神経難病の方や頭痛、めまい、ふらつき、手足のしびれ・脱力などの脳神経症状を有する方の診療を行っています。

その他、地元住民の方のかかりつけ医として生活習慣病、感染症、健診、予防接種、往診に加え頸部・肩・腰・上下肢の運動器異常に対して外来物理療法も取り入れ地域の方の生活向上に役立つよう努めています。

関連疾患、症状、各事項に対してお気軽に御相談ください。

医療法人芳清会 串木野内科・循環器科



◆ 内科、循環器科、呼吸器内科

院長 / 有川 清猛
 住所 / いちき串木野市中尾町 72
 電話 / 0996-33-2211
 診療時間 / 【月・火・水・金・土】
 午前 9:00～13:00
 午後 14:00～17:30
 【木】
 午前 9:00～13:00
 午後休診

休診日 / 日、祝、木曜午後

診療案内

受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	○	×

平成元年設立、ベッド数19床の有床診療所です。「継続は力なり」「暖かい心のこもった診療」をモットーに院長をはじめ、スタッフ一同心掛けています。標榜科目でもあります循環器科の草分けとして地域医療の最前線を担って25年経過いたしました。開院当時はまだ循環器という名称は珍しく市民の方々にみられていたと思います。

現在、介護保険分野では、グループホームさくらの丘も立ち上げ、常勤医1名、非常勤医3名体制で、心疾患を主に、内科一般に取り組んでおります。いちき串木野市医師会の先生方はもとより、鹿児島大学病院、鹿児島医療センター、鹿児島市立病院、川内市民病院、済生会川内病院と幅広く連携し地域住民の健康管理、治療に邁進する所存です。

知っておきたい 専門職の仕事

言語聴覚士の仕事



いちき串木野市医師会立脳神経外科センター
リハビリテーション部
言語聴覚士主任
兼 摂食嚥下療法室リーダー
尾崎 幸平

食べる為のケアやリハビリ

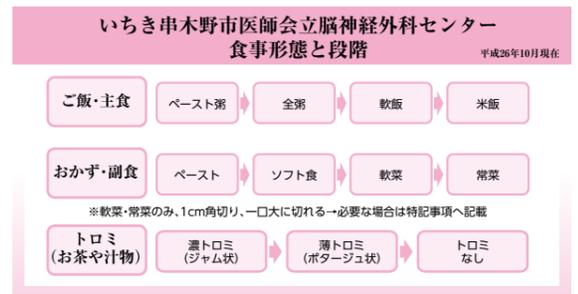
第2回摂食嚥下療法室の活動

1、口から食べることの重要性
口から食べることは生命活動に必要な栄養を摂ることに加えて、人生の質を良くする楽しみや生きる力をもたらしてくれます。当院では、摂食嚥下療法室を中心に、入院早期から、摂食嚥下障害の患者様に対して、口腔ケアや食べ物を使わない摂食嚥下の訓練（間接嚥下訓練）を行い、安全に食べて健康に回復して頂けるような支援（直接嚥下訓練）を行っています。



2、活動
①情報集約
平成25年度より、摂食嚥下訓練者リストを作成し、ケア・リハビリをいつでも提供できるように努めています。
②業務改善
・食べ物を使わない摂食嚥下のリハビリ（間接嚥下

訓練）シートを作成し、シートをみながら誰でもケア・リハビリを行えるように努めています。
・定期的に食事の形態や段階の検討を行い、患者様にとって食べやすい食事を提供できるようにしています。



③平成26年度院外活動
H26.4.28：多職種連携研修会（ライフハーバーいちき）に講師として出席
H26.7.26：南薩地区看護研修会に講師として出席

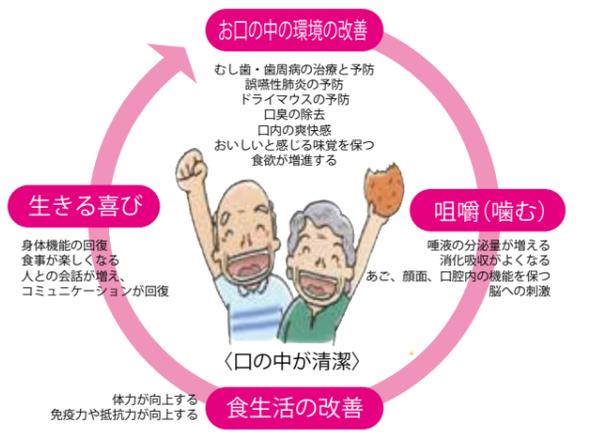


H26.9.25：サルコペニア（加齢による筋肉量の低下）について他施設を交えての勉強会開催
H26.9.26：介護支援専門員研修会に講師として出席

3、今後の取り組み
現在、摂食嚥下について地域に向けた活動も積極的に行っています。何か不明な点や食べる為のケアやリハビリについて聞きたいことがあれば、いつでも、いちき串木野市医師会立脳神経外科センター摂食嚥下療法室担当までご相談下さい。また、今後の取り組みとして、食べる為の検査・評価といった外来や摂食嚥下訓練の為の期間を決めた短期入院ができるよう整備していけたらと（私個人としては）考えています。



最後になりますが、食べる喜びは生きる喜びです。私たちが、口から食べる為のケアやリハビリをすることで、より多くの人が笑顔で食事を食べて頂けることが、私たちの喜びです。



みんなの掲示板

地域包括ケア病床を開設しています！

◇「地域包括ケア病床」とは、

平成 26 年 10 月 1 日より 2 階病棟の 10 床を地域包括ケア病床として運用することになりました。

急性期疾患の治療後、自宅や施設へ退院するには不安のある患者様に対し、在宅復帰に向けて診療、看護、リハビリテーションを行います。また、在宅療養中の患者様の入院が必要となった時、在宅医(かかりつけ医)から依頼を受けて入院治療後、在宅復帰を支援します。

※ 該当病床に入室後は最長 60 日以内での退院が原則となります。



◇こういうことにお困りでないですか？

- ①ご自宅や施設等の療養中に発熱や怪我などで徐々に日常生活動作(ADL)が低下し、褥瘡(床ずれ)などの医療処置などが増え、「在宅療養継続のための栄養改善やリハビリテーションを考えたい…。」
- ②「ご自宅や施設等の療養中でむせ込み、誤嚥にて食事摂取量が減っており、口腔ケア等の食べる為のリハビリテーションを受けたい…。」
- ③患者様が安心・安全・安楽な在宅生活を継続して行うため、介護者(ご家族)への介助・介護方法、教育指導を受けたい…。」

まずは、ご相談ください。

地域医療支援室：南新 受付時間／9：00～17：00 ☎ 0996-32-9999

編集後記

新年明けましておめでとう
ございます。今年には正月から雪がちらつく寒い年明けになりました。寒くなりインフルエンザやノロウイルスがはやっていきますので、皆様もうがいや手洗いをして感染予防に努めてください。平成27年の新年号としていちき串木野市医師会の丸田修士会長と当院長の下鶴哲郎に新年の挨拶と抱負をいただきました。さゆりクリニックの丸田小百合先生に糖尿病と共に生きる第2回「糖尿病とがん発生について分かりやすい解説をいただきました。糖尿病があると癌の発生率が高くなるという怖いお話でした。医師会会員の病院紹介に言語聴覚士の仕事や地域包括ケア病床の紹介など多彩な内容になっています。今年も皆様方の役に立ち気楽に読める内容にしていきたいと思っておりますので、ご支援のほどよろしくお願いたします。

(文責 寺田)